



あいび
言語芸術学科



こちら 言語芸術学科 です



2021年度 春



【このパンフレットについて】

このパンフレットは、福岡女学院大学人文学部言語芸術学科について、その活動や学生・卒業生の様子を中心にお伝えするものです。

授業紹介ページは、学科の専門科目からピックアップしたものをお届けします。更に多くの講義・ゼミ等については次号以降をお楽しみください。

ネットラジオページは、学科創立以来、学生を主体として行なってきております言語芸術学科ネットラジオ局の様子をお伝えするものです。

卒業生紹介ページは、学生たちが言語芸術学科で学んだこと、そして現在とりくんでいる仕事などについてインタビュー形式で語っているものです。博物館関係からイベントスタッフ、さらには教職関連など、社会のそれぞれの分野で活躍している様子をご覧ください。

なお使用している写真の一部は 2020 年度以前のものを含んでおりますことをご了承くださいませ。

このパンフレットを通して、わたしたち言語芸術学科の魅力に触れていただければ幸いです。

【福岡女学院大学 人文学部 言語芸術学科について】

言語芸術学科は、言語芸術作品（文学や映画）を【教材】として使いながら、言語（日本語・英語）能力と思考力を徹底的に鍛え、何事にも臨機応変に対応できる逞しい人材を育てることを【教育目標】においているリベラルアーツ/アクティブラーニング系の学科です。【教材】と【教育目標】をリンクさせる【教育手段】として、フィールドワークなどの実践科目を豊富に備えています。

【授業紹介】イギリス文学の変遷

この授業では、イギリス文学のおもな作家や作品を時代背景とともに紹介しながら、イギリス文学がたどってきた歴史を見ていきます。三年次の「海外フィールドワーク(実践)」ではイギリスで文学・文化の現地研修をしますが、「イギリス文学の変遷」はそのフィールドワークの予備学習的な授業でもあります。ですから授業では、現地に行った気分、その時代にワーブしたような気分を味わえるように工夫しています。イギリス文学の中には映画になっている作品もたくさんありますから、映画を鑑賞して意見や感想を交換したり、写真を使った“バーチャル文学散歩”もしています。



特に 2020 年度は気軽に旅行できる状況ではありませんでしたから、バーチャル文学散歩は好評でした。教員が現地で体験した珍エピソードも紹介しながら、写真で文学にゆかりの土地をめぐる。バーチャル文学散歩には「本当に行った気分になれて楽しかった」「いつか自分の目で見てみたい」「コロナでなかなか出かけられないけれど、楽しい気分になれた」などの声をたくさんいただきました。授業の最後のアンケートでは、こんな感想もいただきました。「今までほとんど関わることのなかったイギリス文学を一年を通して学び、こんなにも面白い魅力的なのだともっと早く知りたかったと思いました。授業が終わっても本や映像作品でこれからも親しんでいきたいと思いました。」これからも、「文学はおもしろい！」と思ってもらえる授業を目指していきます。

【授業紹介】言語芸術ワークショップB

本学科ではプロとして現場で活躍されている方々を非常勤講師としてお呼びして授業を担当していただいております。

言語芸術ワークショップBは、映画プロデューサーの小野光輔先生に担当していただいております。この授業は2月の終わりか、3月のはじめに集中講義で行われますが、毎年、若手の女性の映画関係者をゲスト講師としてお呼びしています。

これまでに山戸結希監督（『溺れるナイフ』『ホットギミック』）、枝優花監督（『少女邂逅』『21世紀の女の子』）、穂山菜由監督（『月極オトコトモダチ』『蒲田前奏曲』）をお呼びしています。

そして今年は・・・残念ながらリモートでの参加になりますが、松林うららプロデューサーをお呼びいたしました。

矢崎仁司監督の『1+1=11』で映画デビューされ、緒方貴臣監督の『飢えたライオン』で世界的に高い評価を受けた俳優であり、『蒲田前奏曲』ではプロデューサーをされています。これからも活躍が期待される松林プロデューサーのお話をきいて、学生たちは次々と作品に対する感想や質問を投げかけていました。お忙しい中、参加していただきありがとうございました。

次回はぜひ、対面授業にお呼びしたいです！



【授業紹介】言語芸術フィールドワークA

広島・尾道・徳島・大阪をフィールドワーク場とし、関連した言語芸術作品を事前授業において充分学習し、現地での学習を行う科目です。キーワードは、平和、日本映画、西洋絵画、海外映画です。研修地は広島平和記念資料館、尾道・文学と映画の町並み、大塚国際美術館、USJです。

この授業は事前学習において、それぞれのキーワードに関連した学びを後期期間にじっくり行ないます。戦争と平和の多角的学習、志賀直哉の文学や大林宣彦の映画、歴史と神話を伝える西洋名画、ハリリー・ポッターと魔法の言語など、どれをとっても充実した学習体験となるはずで

履修者の中から研修地を再訪問する人も出るほど、学ぶ喜びがいっぱいの科目です。



【授業紹介】日本語表現A（小説・物語）

言語芸術学科で現在開講されている選択科目「日本語表現A（小説・物語）」では、日本児童文学の歴史を江戸・明治・大正・昭和・平成・令和とたどりながら、それぞれの時代に合うべく工夫された物語のテーマとその日本語表現について勉強しています。

日本児童文学は、そこに関わる人々の情熱ゆえに、「芸術性」と「教育効果」の両面を意識しながら常に改良が施されてきました。



大正7年（1918）に創刊された児童文学雑誌『赤い鳥』には、「世俗的な下卑（げび）た子供の読みものを排除して、子供の純性を保全開発するために、現代第一流の芸術家の真摯（しんし）なる努力を集め、兼（かね）て、若き子供のための創作家の出現を迎ふる」ということが宣言されていました。

その言葉どおりに、創刊号ではあの芥川龍之介「蜘蛛の糸」が誕生しましたし、やがて新美南吉「ごん狐」（昭和7年）などの名作も世に送り出すようになりました。

しかし、時代が変わっていけば求められるものも変わっていきます。授業ではその変化を見届けながら、「良い児童文学」とはどのようなものなのか、ということについて考えていきます。そして授業の終盤には、その歴史を踏まえて学生それぞれが見出した現代における「良い児童文学」の論理と作品例について発表していきます。

児童文学は誰もが触れてきたものでありますが、その歴史と作品を客観的かつ論理的に見直してみることによって、また新たな発見が生まれてきます。

※写真は、大正7年の『赤い鳥』創刊号（広島市立中央図書館所蔵）

【授業紹介】国内フィールドワーク — 聖地巡礼コンテスト

この授業では、これまで信州や奄美に赴き、その土地の文化や歴史を学んできました。

2020年度は、実際にフィールドには行けなかったため、受講生たちの普段過ごしている場所で撮影した写真をロケ地に見立て、聖地巡礼ガイドを創作する課題を行いました。グループに分かれ写真を持ち寄って架空のストーリーを創作。それだけでなく、ロケ地となった地域はどんな行動をしたのか、その作品のファンはどんな行動をしたのかも想像しながら、架空の聖地巡礼ガイドを作ります。最後に、グループ対抗のプレゼンテーションを行いました。

何気ない普通の景色を巧みに活かしたり、都市と田舎を対比させたり。受講生の生活範囲に合わせてどのストーリーもよく出来てきました。インスタ映えで人気のスポットになったり、作者のサインが飾られていたり…といった架空の設定も練られ、こちらの予想以上に、力作の聖地巡礼ガイドが出来上がりました。



上のスライドは受講生から最も人気のあったプレゼンテーション。病気がちの少女が初めて外の世界に踏み出す物語。何気ない川の風景や人気のケーキ屋さんがうまくロケ地として活かされています。



こちらのスライドは「自分は神さまだ」と名乗る男性と出会った女性の物語。作者やロケ地の設定もよく練られていました。

プレゼンテーション後の授業では、芭蕉にならって「その作品の大ファンである自分が聖地巡礼してきた」という体で、俳諧紀行文を作りました。何気ない風景をいつもと違うまなざしで見ることや、作品のなかに描かれる実際の風景に関心を抱くことは、フィールドワークをする上でとても大切です。また、実際の町づくり等においても、このような視点は非常に役立ちます。

実際のフィールドに行けなかったのは残念でしたが、これからまたフィールドに行ける日がきたら、ぜひ今回のように豊かな感性で臨んでほしいと思います。

【卒業制作紹介】歌舞伎の魅力をラジオ形式で紹介

言語芸術学科では、3年次に卒業論文を完成させ、4年次では「言語芸術研究」という授業で、外部に向けて発信をします。

今回は M さんの卒業制作作品を紹介します。

M さんは「歌舞伎の伝統と革新 三代目市川猿之助の活動を中心に」というテーマで、卒業論文を書きました。歌舞伎がこれまでどのような変化を遂げてきたのかその歴史をたどり、なかでも三代目市川猿之助が創り上げた「スーパー歌舞伎」を取り上げ、その意思が現代にどう受け継がれているのかを考察しています。



4年生では、卒業論文の内容を踏まえて、歌舞伎の魅力を紹介するネットラジオ番組を製作しました。卒業制作は、論文とは違い、発表の媒体も自分たちで考えます。M さんは、この学科 today でも紹介しているネットラジオの活動を続けているので、声によるラジオ形式の発表を選びました。

歌舞伎を見たことのない人に、声だけでどのように歌舞伎の魅力を伝えるか。ラジオでは、M さんが観劇したエピソードなども交えながら、丁寧に紹介されています。この製作は録音や編集も学生自身で行います。そのための試行錯誤もまたこの授業では新しい学びや気づきにつながると考えています。

「舞台ではきっとこういう風に役者さんが動いてるのかな…」と想像しながら聴く楽しみはラジオならではの、よろしければぜひお聴きください。

※ Youtube リンク <https://www.youtube.com/watch?v=jj-eSbJUXkE>



言語芸術 ネットラジオ



言語芸術学科は2013年度にスタートしました。その時に学生有志が、この言語芸術学科ネットラジオ局を立ち上げました。

それから毎週1～2本のオリジナル番組を配信し続けています。全国的に見ても、これくらい活発に番組配信をしている大学生グループは珍しいと思います。



【ネットラジオ紹介】4年生 N.Mさん

– どうしてネットラジオに参加されたのですか？

元々大学に入学する前から、ラジオが好きでした。新入生宿泊研修で先輩方がラジオ収録している様子を見る機会があり、その時に先輩方がとても楽しくお話されていて、私も挑戦したいと思いました。

また、当時は**あまり話す事が得意ではなかった**ので、**言葉だけで様々な事を伝える**ラジオなら、鍛えられると思いラジオ活動に参加しました！



– ネットラジオ局にはどんな番組がありますか？

言語芸術学科ネットラジオ局では、学年ごとに番組を作ってYouTube上で配信しています。私たち4年生は『バズラジ』という番組をお届けしています。番組内では、**学科紹介、地元紹介、ゲームなど**、様々なことをよくお話しています。**台本作りや話題集めも自分たちで行い**、番組を作っています。普段は大学内にある、編集室で収録しているのですが、最近は**ツイキャス**や**zoom**などを利用して、リモートで収録しています！



– 最近の活動を教えてください。

ラジオ番組の配信だけでなく、動画の配信も行なっています。内容としては、福岡の名所を学科の先生と一緒に**ロケ**に行き、解説をしてもらっています。**撮影の取材交渉なども自分達で行なっています**。これまでに柳川と門司港に行きました。福岡の名所以外にも、大学内にある福岡女学院の歴史を学べる資料室で撮影し、**女学院の歴史**について紹介しました。最近は、ロケに行くことができない状況なので、学科の先輩方が卒業研究で制作した小説を朗読し、感想を話したりなど、リモートで新しいことに挑戦しています。

– 受験生の方にひとことお願いします。

少しでも興味がある人は、ぜひ挑戦してほしいです！私も最初は興味本位で参加したので不安でしたが、先輩や先生方がサポートして下さるので、楽しく活動しています！また、活動に参加したことで後輩との繋がりができたり、発表の時に自信を持って話せたり、様々なことを得ることができました！

表現することが好きな方、話すのが上手になりたい方、人脈を広げたい方、大学の4年間に何か挑戦したい方。理由はなんでも、ぜひ一歩踏み出してみてください。



【ネットラジオ紹介】4年生 M.Mさん

－ どうしてネットラジオに参加されたのですか？

オープンキャンパスでラジオ収録体験をさせていただき、ネットラジオの活動を知りました。先輩たちが企画や原稿などを考え、**学生主体で情報を発信している姿**を見て、「挑戦してみたい！」と思ったのがきっかけです。



私は日常生活で聞き役に徹することが多かった為、自分から何かを発信したり話したりすることが苦手でした。なので、「自分で考えて積極的に発信する力」や「様々なことに興味を持ち分析する力」などを身につけることを目的として参加を決めました。

－ ネットラジオ局ではどんな活動をされていますか？

学年ごとに活動していて、現在は二年生の『FREEDOM!!』、三年生の『CUBE』、四年生の『パズラジオ』の三つの番組を学年ごとに配信しています。通常は学内にあるコンテンツ編集室という録音ブースで収録を行なっています。マイクや録音するための機材など、**収録に必要なものがすべてそろっているため、「ラジオを録りたい」と思ったらすぐに録音できる環境**が整っています。これらの録音したデータは編集され、学科のブログやYouTubeなどで配信されます。



－ ほかにどんな活動をされていますか？

ロケでは文学作品や映像作品に関する資料館を訪れたり、地元の人しか知らないような穴場スポットを取材したり、インタビューをしたり…**現地へ足を運び、映像を撮って紹介する活動**を行なっています。ロケに出かける前に事前に取材したい場所を絞り、スケジュール管理・撮影許可などの交渉を自分たちで行ないます。スマートフォンやカメラ、ボイスレコーダーを使って撮影します。当日は先生方もサポートして下さるので安心してロケを行うことができます。今までに太宰府や柳川、門司港などでロケを行ないました。

また、ロケだけではなく、ラジオドラマを制作したり、朗読をしたり、葡萄酒祭でラジオの公開録音を行なったり、様々な活動を行なっています。ラジオドラマや朗読の脚本は言語芸術学科の学生が書いたもので、**学生による完全オリジナル作品**となっています。

－ 受験生の方にひとことお願いします。

四年間のラジオ活動を通して、「自分で考えて積極的に発信する力」「様々なことに興味を持ち分析する力」を得ることができたと感じています。活動を始めてから、世界のニュースや日常生活での新しい発見など、**幅広い物事に興味を持ち、考え、学ぶ時間が増えました**。他にも、言葉だけで内容が伝わるように文章を分かりやすく簡潔にまとめたり、ラジオの企画を考えてプレゼンしたり、様々なところで鍛えられます。また、ロケの取材交渉をしたり、現地の方と交流したりするなかで**礼儀や社交性**も身についたと思います。学年をこえてコラボ収録を行なうこともあるので、先輩や後輩との交流も広がります。

どの活動も普通の大学生は経験できないことです。「**大学で四年間ラジオ番組を制作した!**」という**事実**は必ず**自分の強みになる**と思います。この活動を通して得た力や知識は**社会に出てからも役に立つ**と自信を持って言えます。

【ネットラジオ紹介】4年生 E.M さん

– どうしてネットラジオに参加されたのですか？

きっかけは一年生の時に聞いた先輩方の紹介です。先輩方は今まで私が触れたことのないような機会を使い、**とても楽しそうにラジオ収録**をされていました。その光景は一年生の私にとって**とても魅力的で、新鮮で、挑戦したい**と思い、ネットラジオを始めました。



– ネットラジオ局ではどんな番組をされていますか？

ネットラジオは、1年生から4年生までいて、**学年ごとにチーム名**があります。日頃はチームごとに何か話題を取り上げ、それについてラジオ収録をします。私が一年生の時は、最初は先輩方にお招き頂きました。その頃は夏だったので、夏のお菓子についてクイズ形式で語ったり、休暇中の思い出を語ったり、テーマである夏について主旨がぶれない程度に掘り下げていき、楽しく収録をしました。



– ネットラジオ局でのロケは？ コロナ禍での活動はどうでしたか？

ロケは日頃とは違い、外で活動します。昨年の夏は、門司港に行きました。まず、門司港で行きたいところや調べたいところをあらかじめピックアップして、そこでの撮影許可をとり、収録をしに行きます。ロケでの良い点は、日頃行っても通り過ぎるだけの場所、**数多くのことを知る**ことができ、**様々な歴史を学ぶ**ことができることです。また、**現地の方との出会い**もこのロケの良いところだと思います。

コロナ禍には朗読をオンラインで収録しています。みんなが集まって何かをするということができなくなりましたが、**そんな時だからこそできること**を考えました。過去の先輩方の作品を個人で読む練習をして、ネットで繋がり、1人が読んでそれについてみんなと語り合っていきます。先輩方の作品にはそれぞれ同じキーワードが隠されていて、そのキーワードは何かを考えながら読んだり聞いたりすることはとても楽しいです。

– 受験生の方にひとことお願いします。

このネットラジオは部活でもサークルでもないですが、学生有志でやっている他にはない企画です。他大学に行ってもなかなかすることのないようなことをこの学校で経験できて良かったと思います。私は元々テレビ関係の機械を扱う仕事か、教員か迷ってこの学校に入学しました。そんな私にとって、**教職課程も取れて、ラジオ活動もできる**この言語芸術学科はとても魅力的だと思います。

新入生にとって、このネットラジオは先輩や先生と繋がれるチャンスだと思います。**人との出会いは自分を大きく成長させることに繋がる**と私は考えています。



【ネットラジオ紹介】2年生 Y.Nさん



－ どうしてネットラジオに参加されたのですか？

元々ラジオが好きで、よく聞いていたからです。いろんな番組を聞いていくうちに、自分自身リスナーとしてお便りを出すこともありました。それをパーソナリティの方が楽しげに読んでくださって、話を広げていただいたことがとても嬉しくて。

自分も言葉だけで楽しませることができると作ってみたいと思うようになりました。大学受験をする時に言語芸術学科ではそれができると知り、先輩たちのネットラジオも聞いてみて、楽しそう！と思ったのも理由の一つです。大学に入ったら、絶対に挑戦したいと決めていたので参加しました。



－ ネットラジオ局に参加してどう感じられましたか？

率直な感想ですが、楽しいです。喋るのがあまり得意ではない方でも自由に発言できて、のびのびとやっています。自分たちのラジオがネットにUPされると、なんだか嬉しいような恥ずかしいような不思議な気持ちになります。時にはどんな話をしよう、とネタに困る事もありますが、やっていて達成感があります。私は「FREEDOM!!」というタイトルの番組をやっていますが、「What's up?」「パズラジ」「CUBE」の先輩方ともコラボする機会も多く、先輩後輩関係なく仲がいいと思います。また、やりたい事を快く了承していただけるラジオメンバーに恵まれており、「こんな事をやってみたいです」と言えば、「やりましょう!」と言っていただける環境です。自分のやりたい!が叶う場所だと思っています。

－ どんなことを学ばれていますか。

1つ目は言葉遣いと気遣いです。私は言葉選びがあまり上手ではないので、聞いている人が不快に感じないようにするために言葉遣いに気をつけています。まだまだラジオ2年目ですし、至らないところはありますが、1年目に比べて周りの状況を冷静に見ることができるようになりました。MCとして話を回してみたり…としているうちに何が適切な対応なのか身につきました。

2つ目は録音機材に詳しくなりました。ネットラジオでは、本格的なマイクや録音機材を使います。最初は慣れず戸惑いましたが、先輩たちが丁寧に教えてくださったのでできるようになりました。

－ 受験生の方にひとことお願いします。

少しでも興味があるなら、ぜひ参加してみてください。自分のやりたい!が叶う場所です。ネットラジオではラジオロケをやったり、先輩たちとコラボしたり、録音機材を実際に自分たちで組み立てることもできます。ネットラジオをやっているのは言語芸術学科だけです。入学したら、ぜひメンバーとして活動してみてください。自分の意外な一面とも向き合える場所だと思うので、悩みながらも一緒にいい作品を作りましょう!





卒業生紹介



先輩に



聞いてみました



2019 年春卒業：N.Y さん



Q. 言語芸術学科の特色をお伝えください。
A. 魅力的な講義がたくさんあり、フィールドワークが広く取り入れられていることです。この学科を選んだからこそ、実地研修を通して多くのことを経験できました。
言語芸術学科が有利な点は、**他の大学には真似できないカリキュラムや特色ある講義**が詰まっていることです。それぞれの得意なことや個性を最大限に発揮できました。とても有意義です。

Q. どんなお仕事をされていますか？
A. 私は現在、福岡市にある福岡和白病院の医事課に勤務しています。救急病院として救急搬送用ヘリのホワイトボードやドクターカーの運用など幅広く行っているため、毎日たくさんの患者様が来院されます。患者様を常に気遣い、小さな変化に気づけるのは事務の強みだと思います。言語芸術学科が目指すポリシーの中に「**どんな状況にも立ち向かえる人材を養う**」とあります。

Q. 言語芸術学科での学びを考えている高校生にひとことお願いします。
A. 大学を、「なんとなく就職率がいいから」、「この学部が無難だから」という感覚で選ぶことがあるように感じます。また大学で学んだことと就職先は全く繋がっていないように思われるかもしれません。私も入学した当初は自分が医療の世界に進むなんて思ってもみませんでした。しかしこの学科にはいつも**新しいことに挑戦する学生がいます**。先生も同級生も、先輩も後輩も、誰もが支え助言してくれるので、行動に移すことができます。それを否定したり笑ったりする人なんかいませんから、目標をもってこの学科でチャレンジしてみませんか。

2020 年春卒業：R.T さん



Q. どんなことを学ばれましたか？
A. 太宰治や夏目漱石、シェイクスピアといった文豪たちに触れました。作品の歴史的背景や文化、文法や単語の意味を学ぶことで、より深く作品を楽しむことができました。
また講義や学外活動では音響スタッフもしました。作品や演出に合わせて流す音楽や効果音の演出も考え、演じる方との呼吸を合わせながら操作を行っていました。**作品から学び体験することで新たな表現に繋げていく**ことは、言語芸術学科にいたからできたのだと思います。

Q. 言語芸術学科での学びを考えている高校生にひとことお願いします。
A. **ぜひ自分の「やりたいこと」を見つけてください**。この学科には、魅力あふれる講義と先生方、先輩方がいらっしゃいます。何かやりたいことや気になったことを見つけたら、「やってみたい！」と言ってみてください。先生方は真剣に話をきいて、全力でサポートをしてくれます。その際には、**同期や先輩方も巻き込んで**みてください。ぜひ常識にとらわれずに、自分からいろんなことに取り組んで、充実した大学生活を送ってください。この時に学んだことや経験したとは、**必ず将来につながっていきます**。

Q. どんなお仕事をされていますか？
A. 私は現在、株式会社アドバンストラフィックシステムズという J R システムグループの鉄道事業を始めた社会インフラに関わる IT 系の企業でプログラマーとして働いています。就職を機にプログラミングの勉強に取り組み、公共性の高い事業に関わることから「**学び続ける姿勢**」を特に意識しています。分らないことをそのままにしたりすると重大な問題を引き起こしかねません。日々システムや技術の勉強に取り組み、疑問点は自分で調べ、先輩たちに相談等を行っています。この事は大学生活の中で気になったことをすぐ調べたり、先生にお話を聞きに行っていたことに繋がっています。

2020 年春卒業：M.N さん



Q. どうして言語芸術学科を志望されたのですか？
A. お芝居が好きで、大学でもやり続けたいと思っていたので、カリキュラムに惹かれてここがいい！と思うようになりました。オープンキャンパスで先輩方がとても仲良くされていたのが印象的で、4月に会おうねって言ってもらえたのが嬉しかったのを覚えています。受験の決め手となったのは、お芝居だけでなく、英語や教養など、**社会に出て役立つ知識**を得られると感じたことです。

Q. どんな学びがよかったですか？
A. 視野が広がったことが1番大きな変化だと思っています。例えば、入学前は海外なんて一切興味なし、英語なんて大嫌い！なんて言っていた私ですが、イギリスでの研修を通して、英語で会話することの楽しさを知りました。逆に日本の魅力を新たに発見することもあり、ハワイでプレゼンしたこともあって、高校生の私が聞いたら驚くと思います。また、先生の勧めで参加した授業や課外活動で、**諸方面で活躍されている方々のお話を聴いて、その現場に参加できた**ことは、未知の業種を知ることができ、また、自分に足りないものは何かを考えるきっかけになりました。卒業後の今にもつながる貴重な繋がりもいただきました。

Q. どんなお仕事をされていますか？
A. 現在は東京にある株式会社マグネットスタジオでイベントホールや会議室などを管理運営するお仕事をしています。様々なエンターテインメントに関する職業ですが、舞台や映画を創った時の専門知識自体が必要な場面は、今はそう多くはありません。もちろんあって損はない知識ですが、むしろ、**多角的にもものを見る、忍耐強く取り組む**といった考え方や、人との付き合い方、スケジュールの組み方など、4年間作品を創ってきた過程で得たものが、求められているように感じています。

2019 年春卒業：A.S さん



Q. どんなお仕事をされていますか？
A. 現在は株式会社ウエストで、子ども向けテレビ番組のアシスタントディレクターとして働いています。「頭を柔らかく、臨機応変に」ということも授業や課外活動で訓練(?)していたので、そこは今の仕事にも活かしているのかなと思います。また「授業で学んでからフィールドワークする」という流れが「会社で下準備してからロケや収録に行く」という流れに似ている気がします(笑)。

Q. 言語芸術学科で学んでよかったことは何ですか？
A. 教養を得られたことが私の中では大きいです。例えば、今までは物語として面白いという理由で読んでいた本が、時代背景、生活文化、宗教などを学ぶことで、見方が変わりました。たくさん授業から、一つの作品をより**深く広く知る学本事**ができて、じっくりと楽しむことの意味がよく分かりました。教養を身につけると、世間の見方も変わるのだなと実感しました。

Q. 言語芸術学科のアピールをお願いします。
A. 小説や映画、演劇や詩など、言語芸術作品をもっともっと学びたい人にはもってこいの学科だと思います！また、先生方も優しいので、私たちのやりたいことや考えていることを受け止めて、サポートしてくださいませ。
授業は楽しんで学び、フィールドワークでは五感で体験できるのが魅力だと思います！



F. Rさん

Q.言語芸術学科に入学されたきっかけを教えてください。
 A.私は中学校の時から**教師になることが夢**で、大学探しをしていました。英語と国語が好きだったので言語芸術学科はぴったりでした。この学科に決めた理由は、当時のパンフレットです。**英語をしっかりと学べるだけでなく、それ以外のことも学べる**ことが魅力でした。深い教養や身体表現だったり、体験的授業があったり、アニメも好きだったので言語芸術学科を選びました。

Q.言語芸術学科の特色をお伝えください。
 A.言語芸術学科でしかきっと学べなかったことがあります。英語の授業では、**長文読解と発音**を深く学びました。入学まではすらすらと本文の要点を掴みながら読むことができませんでした。入学後、『ドリアン・グレイの肖像』を読む授業があり、そこで初めて日本語の文庫本のように英語の文を読む楽しさを知りました。また高校では発音を学ぶことが少ないと思うのですが、ここではしっかりと学びます。自分の発音を録音し先生に採点して頂き、自分の発音を訂正していく過程は時間がかかり大変でしたが、とても良い学びになりました。ほかの学科よりも体験授業が多く、思い出しにもなりました。ゼミの先生をはじめ、多くの先生が優しく大学生活をサポートしてくれました。

Q.どんなお仕事をなされるのですか？
 A.私は今年度の教員採用試験に合格し、来年の4月から福岡県で**中学校の英語の先生**になります。教師になるために多くのことを知りましたが、**失敗を成功の道具にすること**を学びました。最初は留学する予定もなかったのですが、先生方とも相談し、多くの助言をいただき、無事にこのように教師になることができました。失敗して終わりではなく、そこから自分がどのように動くのか、そこが一番大切だと学びました。教師になるための学科ではないので、その分授業量が多く大変なのですが、教師とは少し離れた分野やその分野を学ぶ友人を見て学びつつ、教師になることが出来ます。教師として生徒に話す一つの話の引出しとして持つことができると思っています。

2018年春卒業：H. Mさん



Q.言語芸術学科の特色をお伝えください。
 A.学びたいことを見つけ、追求することのできる環境が整っていることです。
 1年度、2年度は日本語と英語の文学や映画、演劇など、**多角的な視点でさまざまなことを学んでいきます**。講義や外部での活動を通して「もっとこのジャンルを学びたい！」と思ったときに大学の先生方にサポートしていただけます。
 私は漠然と演劇をやりたいと思い入学しましたが、講義や経験を通してほかのことも興味尽きず、卒業研究では西洋美術や宗教などのかかわりを研究しました。周りの学生も文学やアニメ、社会学など内容が多様多様であることが印象的でした。

Q.どんなお仕事をされていますか？
 A.九州国立博物館にて、展示の企画や学芸員さんをサポートする仕事をしています。
 学芸員さんほどの専門知識を必要とすることはありませんが、お客様視点の見方が求められると感じています。**分からないことをすぐに調べる意識が**、大学での学びを通して自然と身につけており、誰にとってもやさしい説明をしようという心がけています。
 自分が知らない世界を学び続けることができるのはとても楽しいです。

Q.言語芸術学科での学びを考えている高校生にひとことお願いします。
 A.大学生活は自身の過ごし方によってどんなふうにも変わります。いろんなことに好奇心を持ち、好きなことを突き詰めるのを楽しいと感じる心があれば、この学科でかけがえのない時間を送れると思います。
 大学が一番自由にできる時間で、図書館など充実した施設もありますので、**自分のペースでいろんなことに取り組んでみてください**。